令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮南小学校】

①　今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと聞くこと」「書くこと」 算数「変化と関係」 理科「生命」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域 ＜指導上の課題＞ 既習事項を振り返りながら新たな学習と結び付けたり、日常生活に生かしたりすることに課題がみられる。今後は、より児童の理解度を的確に把握し、獲得した知識・技能を活用する場面を設定していくことが必要である。	⇒	**～課題解決するための土台となる学び方を身に付けられるようにする。～** ・これまでに学習したことと新たに学習することのつながりや日常生活との結びつきを感じさせ、学習の必要感を感じさせる授業を展開する。【通年】 ・書き込み式ドリル、ドリルパークの活用で、一人ひとりの課題に合った学習を進める。【週に1度】 【さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的評価90%以上】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと聞くこと」「読むこと」 算数「複数の教量から立式すること」「自分の考えが伝わるように適切な図表を用いて書き表し方を工夫すること」 理科「観察方法を選択すること」や「実験結果を分析して考察すること」 ＜指導上の課題＞ 学びに向かう姿勢や考えて表現しようとすることに課題のある児童がみられる。児童の思考を深めたり、広げたりしていくために、子ども主体の学びとなるような授業をより一層展開していくことが必要である。	⇒	**～自らの課題を見つけ、解決するための方法を考え、行動（説明・議論など）できるようにする。～** ・予想や仮説を基に観察、実験の計画や自力解決の方法を考える等、児童が主体的に解決に向かえる授業を展開する。【毎単元】 ・ペア学習、グループ学習を意図的に取り入れ、自分の考えを表現したり、他者の意見に対するフィードバックを行ったりする活動を実施する。算数では、数学的な言葉や数を用いて理由を説明したり、各教科においては「なぜそのようになるのか？」を考えたり、説明したりする場面を設定する。【毎単元】 【さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的評価90%以上】

②　全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	本校の平均正答率は、すべての教科において全国平均を上回った。児童一人ひとりの学びの積み重ねが、着実に成果につながっていることが分かる。 国語では、言語事項や漢字の活用に関する問題によく取り組み、確かな力を身に付けていることが確認できた。 算数では、知識・技能の定着が概ね良好であり、基礎的な理解がしっかりと根付いている。一方で、「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉える問題」には課題が見られた。これは、実物の分割と数直線上での表現とのつながりが不十分であったためと考えられる。今後は、具体物を操作して実感を伴って学んだり、数直線上での仮分数と帯分数の表し方を確認したりすることで、さらに理解を深めていく。 理科では、前回課題となっていた「地球」に関する領域で大きな伸びが見られ、着実な前進が確認できた。今後の課題として、「金属の性質（電気を通すもの、磁石に引き付けられるもの）」に関する知識の定着が挙げられる。これは、物の性質を見た目や雰囲気から判断してしまったことによる誤解が影響している可能性がある。生活に身近な例（磁石：冷蔵庫のドア、磁石のおもちゃ／電気：コンセント、スマホの充電、アルミホイルなど）と結び付けて学ぶことで、より深い理解と確かな知識の定着が期待できる。
思考・判断・表現	本校の平均正答率は、すべての教科で全国平均を上回った。子どもたちの学習意欲と日々の努力が、確かな成果につながっている。 国語では、課題であった「話すこと・聞くこと」のインタビューのやり取りにしっかり取り組み、力を伸ばすことができた。今後はさらに、「目的に応じて文章と図表を結び付け、必要な情報を的確に見つけ出す力」の向上が期待される。複数の資料を活用し、情報を取捨選択・整理・再構成する活動を積み重ねることで、より実践的な読解力の育成につなげる。 算数では、基礎的な知識や技能が確実に定着しており、その活用力が次の課題となっている。「適切なグラフを選び、その理由を言葉や数で説明すること」や「分数の加法を、共通する単位分数に基づいて数や言葉で表現すること」は、思考力・表現力をさらに高める絶好の機会である。問題解決に応じてグラフを適切に選び、その結論を多面的に考察する力、分数の意味や表し方に基づいて計算方法を工夫する力を育てることで、学びをより深めていきたい。 理科では、前回の課題であった「地球」に関する領域で大きな成果が見られ、学びの定着が確認できた。「レタスの種子の発芽条件に関する問題」から、さらに伸ばしたい点として、新たな課題を見いだし表現する力である。実際の授業で行う「インゲン豆の発芽実験では「水・空気・適当な温度」の3条件に絞られているため、光との関連を考える機会がなかったことが影響したと考えられる。今後は、予想や仮説を基に自ら解決方法を考え、表現する学びを充実させることで、より主体的に科学的な探究へとつなげていく。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	全国学力・学習状況調査の児童質問「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」に対する肯定的な回答の割合は94．9％であった。 学習のまとめに「この内容は他の教科やこれからの学びにどう生きるか」を考える時間を設けたり、教科横断的な単元設定をし、クロスカリキュラム的な課題（例：算数の統計を理科の実験結果に活用、国語で学んだ説明文の書き方を社会科レポートに応用）を取り入れたりしていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	全国学力・学習状況調査の児童質問「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対する肯定的な回答の割合は、96.8％であった。 児童が互いの考えに触れ、学びを広げていけるように、ペアやグループで意見を共有する時間を計画的に取り入れていく。授業の導入でのｉペアトーク、学習の途中でのｉグループディスカッション、学習のまとめでの「全体共有」などを組み合わせ、児童一人ひとりが安心して意見を出し合える場を保障することで、思考の深まりや新たな発見につなげていく。	変更なし

※評価　Ａ 8割以上（達成）Ｂ 6割以上（おおむね達成）Ｃ 6割未満（あと一歩）

④　さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤　学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価　Ａ 8割以上（達成）Ｂ 6割以上（おおむね達成）Ｃ 6割未満（あと一歩）

⑥　次年度への課題と学力向上策

知識・技能	
思考・判断・表現	